



滋賀医科大学

環境報告書2009



本学では環境に配慮するため
用紙媒体での公表は差し控
え、Web上のみの公表と致し
ます。



目 次

1. トップメッセージ	…	1
2. 大学概要	…	2
3. 報告対象	…	6
4. 環境運用組織体系	…	7
5. 物質フロー		
5.1 総エネルギー消費量	…	8
5.2 原材料消費量	…	14
5.3 廃棄物排出量	…	15
5.4 グリーン購入の状況	…	18
5.5 物質フローまとめ	…	19
6. 環境規制への取組	…	20
7. 環境目標・実績(平成20年度)	…	21
8. 環境行動情報	…	22
9. その他	…	25

1 トップメッセージ



滋賀医科大学学長
馬場 忠雄

2009年6月1日に世界の主要70の科学アカデミーから、海洋の酸性化に関するステートメントが出されました。声明書では、地球規模の炭素循環において海洋は重要な役割を果たし、産業革命以来、人間活動において排出されてきた二酸化炭素の4分の1は海洋で吸収されてきたが、もはや不可逆性となって、海洋の生態系にも影響を及ぼすまでに至っている、と指摘しています。

そして、世界の指導者に対し、二酸化炭素の排出量について1990年水準の50%を2050年までに削減するように求めました。しかし、7月のイタリアでのG8や中国、インドなど地球温暖化対策を話し合う主要経済国フォーラム首脳会合では、2050年までに世界全体で温室効果ガス排出を半減させるという長期目標について、合意されませんでした。

一方、琵琶湖においても、地球温暖化による影響は観察されており、「琵琶湖の深呼吸」と呼ばれる水の大循環が、暖冬であった平成18年度の冬に大きく遅れている現象が見られています。

本学においては、節減対策ワーキングを組織し、光熱水量については学生を含めた「もったいない見回り隊」が学内を巡視し、継続的に全学的な節電、節水を呼びかけました。また、ペーパーレス化の推進、ゴミ排出経費の削減などに取り組み、前年度比で上水19.3%、下水6%、紙4.2%を削減することが出来ました。C病棟改修時には空調や便器などの設置において、省エネルギー対応としました。学内ESCO事業として、蒸気バルブの保温を行うことにより、都市ガス使用量を前年度比4.1%の削減出来ました。

本学は緑豊かな自然環境に恵まれ、また近畿の水がめである琵琶湖を眺められるところに立地していることもあって、教職員や学生も環境問題には意識が高く、大学の諸活動においてもCO₂削減に積極的に取り組む一方、大学としても学内ESCO事業を遂行し、低炭素社会の実現に少しでも寄与できるよう引き続き努力しています。

2 大学概要

国立大学法人 滋賀医科大学 組織図

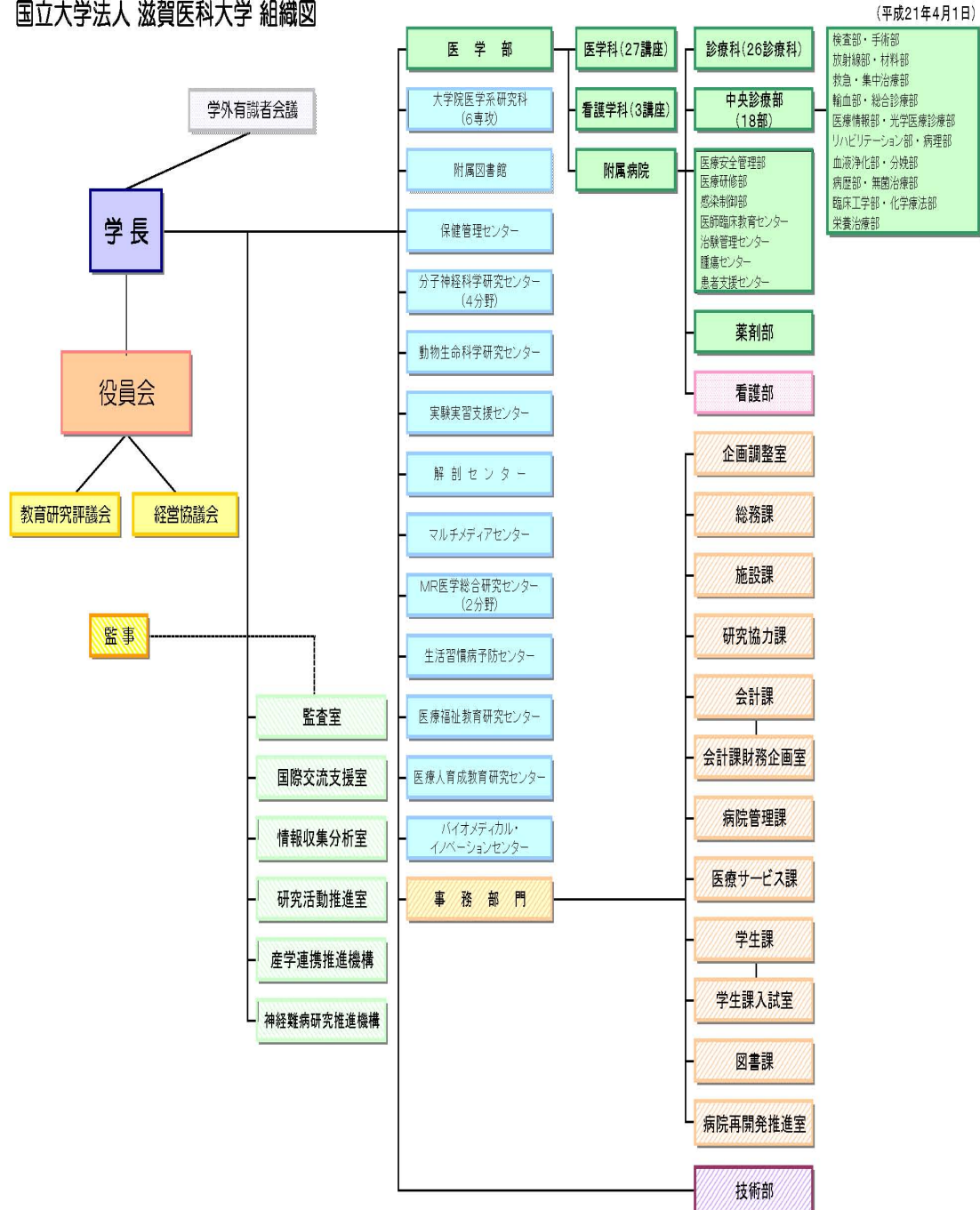


図. 2-1 大学組織構成図

役員

学長	馬場 忠雄
理事(教育等担当・副学長兼務)	服部 隆則
理事(医療等担当・副学長及び病院長兼務)	柏木 厚典
理事(経営等担当)	村山 典久
理事(総務等担当)	脇坂 信夫
監事	荒木 寿一
監事	奥村 隆志

職員・学生数(平成21年4月1日現在)

職員数	役員	6(1)人
	教員	307人
	事務職員	129人
	技術職員	662人
	計	1,104(1)人

(注)()内の数字は、外数で非常勤を示す。

医学部学生数	医学科	597人
	看護学科	264人
	計	861人
大学院医学系研究科学生数		161人
	総数	2,126人

土地・建物

土地	233,017㎡
建面積	37,253㎡
延面積	110,322㎡

沿革

- 昭和49年 2月 滋賀医科大学創設準備室を京都大学に設置
10月 滋賀医科大学開学(滋賀県守山市 仮校舎)
- 昭和50年 5月 開学記念式典の挙行
- 昭和51年 8月 本校舎(大津市瀬田月輪町)の一部完成により仮校舎から移転
- 昭和53年 4月 医学部に附属病院を設置
10月 医学部附属病院開院(320床)
医学部附属病院中央診療施設の設置
- 昭和55年 1月 医学部附属病院の病床が120床増床(計440床)
5月 医学部附属病院の病床が160床増床(計600床)
- 昭和56年 4月 大学院医学研究科の設置
- 平成 6年 4月 医学部看護学科の設置
- 平成10年 4月 医学系研究科看護学専攻修士課程の設置
- 平成16年 4月 国立大学法人の施行に伴い、国立大学法人滋賀医科大学が設立
国立大学設置法の廃止及び国立大学法人法の施行に伴い、国立大学法人滋賀医科大学が滋賀医科大学を設置
学外有識者会議の設置(運営諮問会議の廃止)
医療人育成教育研究センターの設置
睡眠学講座(寄附講座)を開設
情報収集分析室の設置、監査室の設置
中央診療施設等及び特殊診療施設を改組し、中央診療部(15部)、
医療安全管理部、地域医療連携部、医療研修部、卒後臨床研修センター及び治験管理センターに再編
救急・集中治療部の設置(救急部及び集中治療部の廃止)
- 10月 開学30周年記念式典を開催
- 平成17年 4月 基礎医学講座の再編(28講座となる)
解剖学第一講座、解剖学第二講座を解剖学講座に、生理学第一講座、生理学第二講座を生理学講座に、生化学第一講座、生化学第二講座、放射線基礎医学講座を生化学・分子生物学講座に、病理学第一講座、病理学第二講座、微生物学講座を病理学講座に、予防医学講座、福祉保健医学講座、法医学講座を社会医学講座に統合実験実習支援センターの設置(医学部附属実験実習機器センター、放射性同位元素研究センターの廃止)、化学療法部の設置
- 平成18年 6月 バイオメディカル・イノベーションセンターの設置
- 平成19年 8月 新病棟(D病棟)竣工
- 平成20年10月 開院30周年記念式典を開催

【大学紹介】

滋賀医科大学は、国の一県一医科大学構想に基づき、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けると共に、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命として、昭和49年に医学部医学科が設置されました。

その後、昭和56年に大学院医学研究科(博士)、平成6年に医学部看護学科、平成10年に大学院医学系研究科(修士)がそれぞれ設置されました。また、実践的な医療を学ぶために、昭和53年に医学部附属病院(現在608病床)が設置されました。

滋賀県は、中央に琵琶湖があり環状になった細長い県であり、人口の増加率が非常に高い県であります。このように増え続ける県民に対して、福祉や安心・安全な医療を提供することは重要な課題です。

本学としては、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育、研究、診療等を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること、また信頼される医療人を育成することによって、人々の福祉の向上に寄与するため、以下のことをモットーに、教育、研究、診療等の諸活動に取り組んでいます。

- ・「個性が輝く大学」
- ・「良医を育て、名医が羽ばたく大学」
- ・「地域に支えられ、世界に挑戦する大学」



昭和51年



昭和55年



平成21年

図. 2-2 滋賀医科大学周辺写真(年代別)

3 報告対象

期	間	平成20年度						
範	囲	医学部、医学部附属病院、附属図書館、事務部門 (月輪団地の看護師宿舎を除く全てを対象とする。)						
公	表	時	期	平成21年 9月				
次	回	公	表	予	定	時	期	平成22年 9月

参考としたガイドライン

- 環境省 「環境報告書の記載事項等の手引き」
- 「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
- 「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン(2002年度版)」

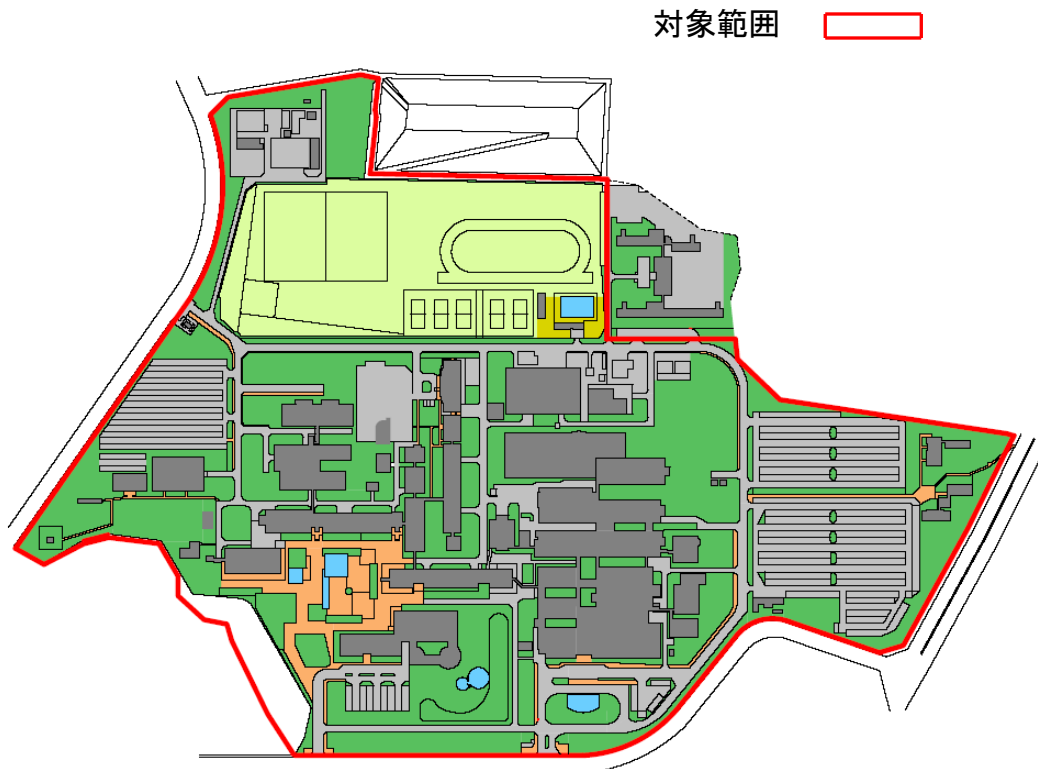


図. 3-1 構内配置図

4 環境運用組織体系 (平成21年4月1日現在)

環境運用組織図

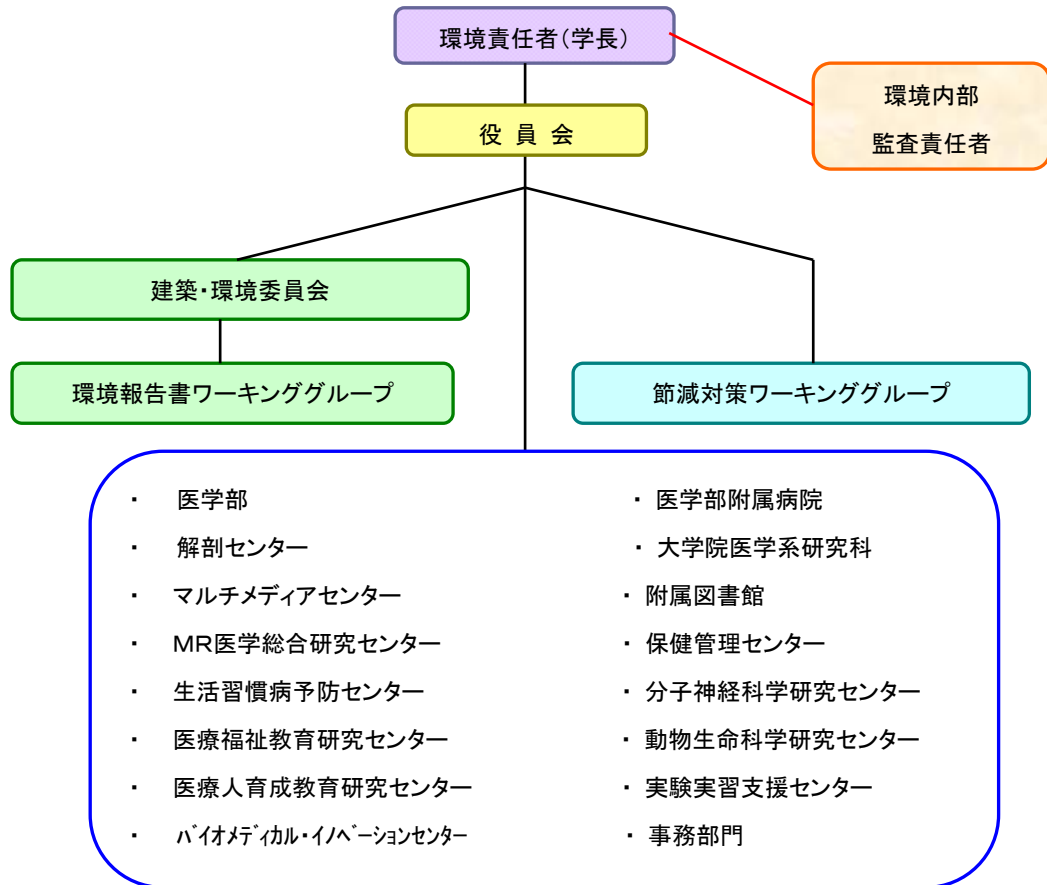


図. 4-1 環境運用組織図

組織運用

(1) 部会等の設置年度

平成12年 2月	建築・環境整備委員会
平成16年 4月	建築・環境委員会設置 (建築・環境整備委員会を改称)
平成18年 1月	節減対策ワーキンググループ設置
平成18年 5月	環境報告書ワーキンググループ設置

(2) 各組織責任者

環境責任者	馬場 忠雄	学長
環境内部監査責任者	村山 典久	理事
建築・環境委員会委員長	脇坂 信夫	理事
節減対策ワーキンググループ長	村山 典久	理事

5 物質フロー

平成20年度に、滋賀医科大学で消費されたエネルギー量（電力、都市ガス、A重油、上下水道）、原材料消費量、廃棄物排出量、及び環境負荷について示します。

5.1 総エネルギー消費量

本学の総エネルギー消費量を電力、都市ガス、A重油使用量より算出した結果を下記に示します。

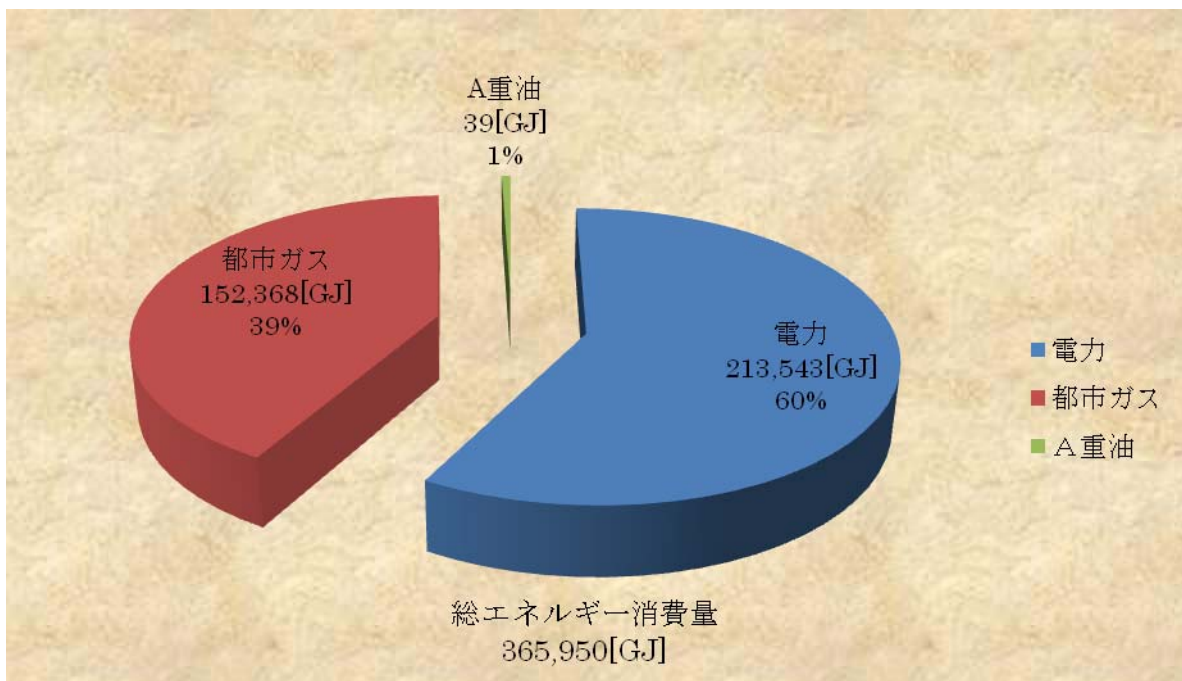


図. 5-1年間エネルギー消費量(平成20年度)

表. 5-1 エネルギー別消費量

	年間消費量		総エネルギー消費量	
	消費量	単位	消費量	単位
電力	21,418,576	[KWH/年]	213,543	[GJ/年]
都市ガス	3,385,965	[m ³ /年]	152,368	
A重油	1	[KL/年]	39	
合計			365,950	

記載単位系について

GJ(キガジュール)………発熱量を表す単位 1cal(カロリー)=4.2J(ジュール) G(キガ)=10⁹

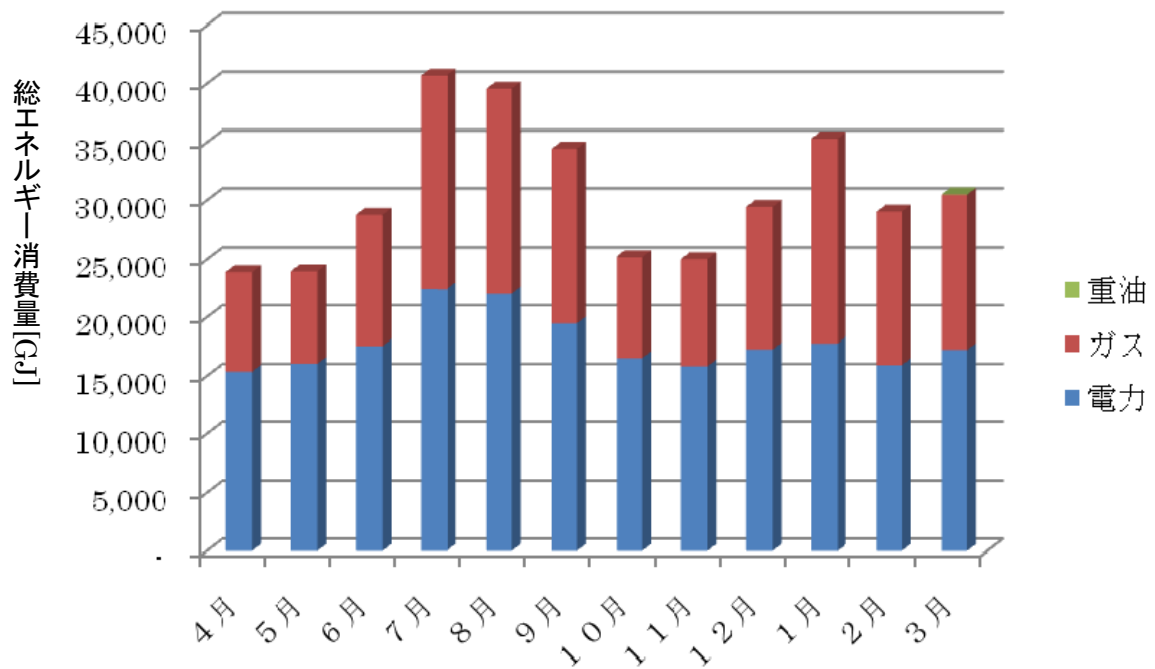
表. 5-2 エネルギー量(平成20年度)

	電力 [KWH]	都市ガス [m ³]	A重油 [L]
4月	1,541,826	189,424	0
5月	1,610,352	176,062	0
6月	1,762,118	248,671	0
7月	2,249,088	406,416	0
8月	2,211,249	389,748	0
9月	1,952,782	333,185	0
10月	1,658,758	192,486	0
11月	1,587,765	204,506	0
12月	1,733,623	270,030	0
1月	1,784,571	389,847	0
2月	1,597,524	290,989	0
3月	1,728,920	294,601	1,000
合計	21,418,576	3,385,965	1,000
前年度使用量	21,159,582	3,532,210	2,000
前年度比	101.2(%)	95.9(%)	50.0(%)

A重油については、平成19年度より、非常用発電機に使用しております。
非常用発電機の運転頻度により、使用量は上下します。

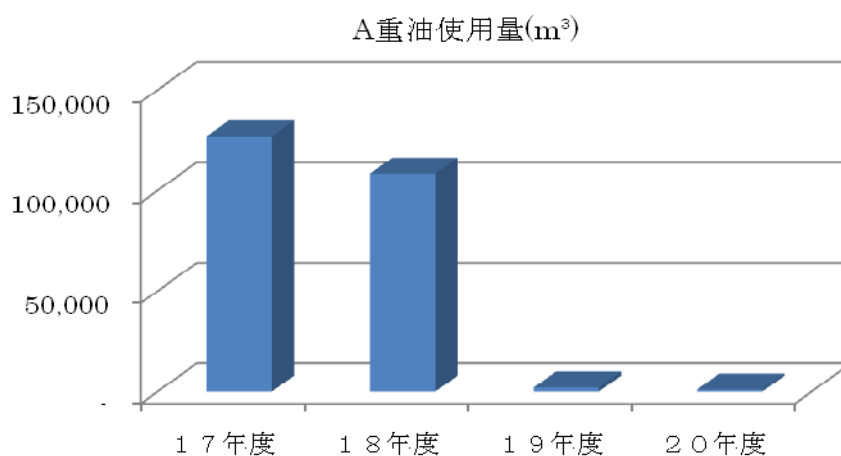
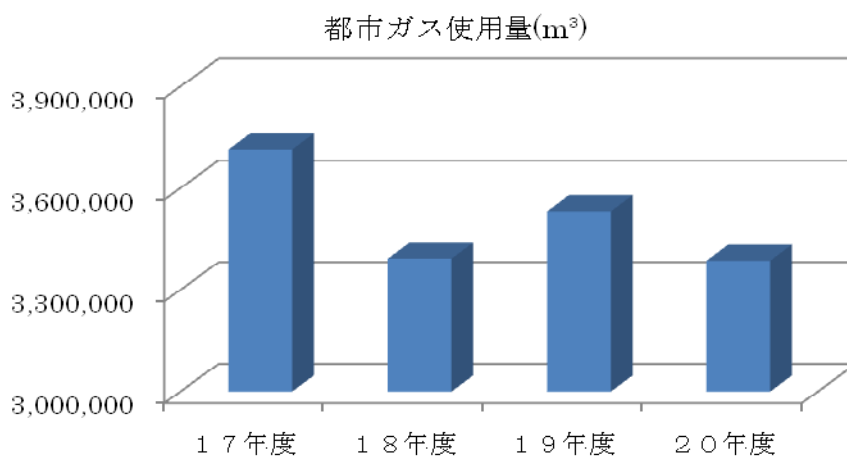
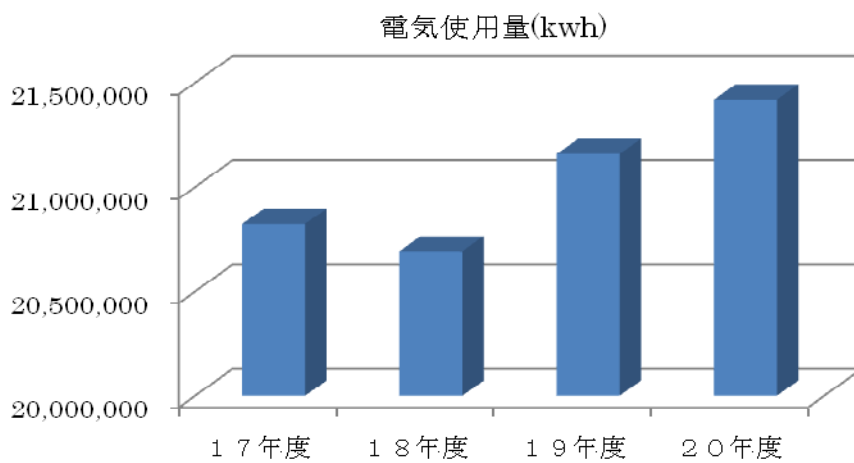
平成19年度は附属病院新病棟(D病棟)が8月31日に完成し、保有施設の延床面積が14%増加したため電気、ガスとも使用量が増加しました。平成20年度は施設の増加の影響が1年間になり、電気使用量が1.2%増加したと思われませんが、各種省エネ対策を実施したことにより、微増にとどめ、ガスや水については縮減することが出来ました。





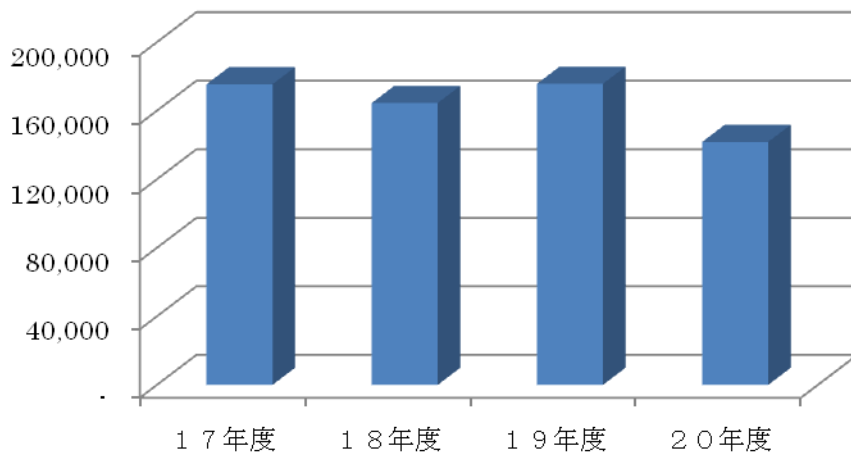
本学で消費している総エネルギー
 365,950[GJ/年]は、一般家庭^{*1}
 の約8,100世帯分のエネルギーに相当
 します。

*1 一般家庭のエネルギー消費量は、「EDMC/エネルギー・経済統計要覧(2006年版)」より、約45.3[GJ/年]と言われております。
 $365,950[\text{GJ}/\text{年}] \div 45.3[\text{GJ}/(\text{年} \cdot \text{世帯})] \approx 8,100[\text{世帯}]$

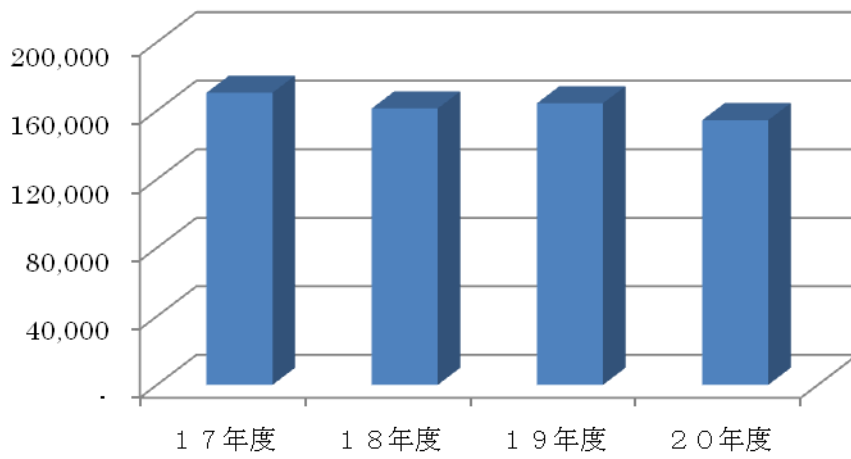


平成17年度からの電気、都市ガス、A重油の使用量の変化を示しています。A重油は平成19年度より常用発電機廃止のため、使用量が激減しています。

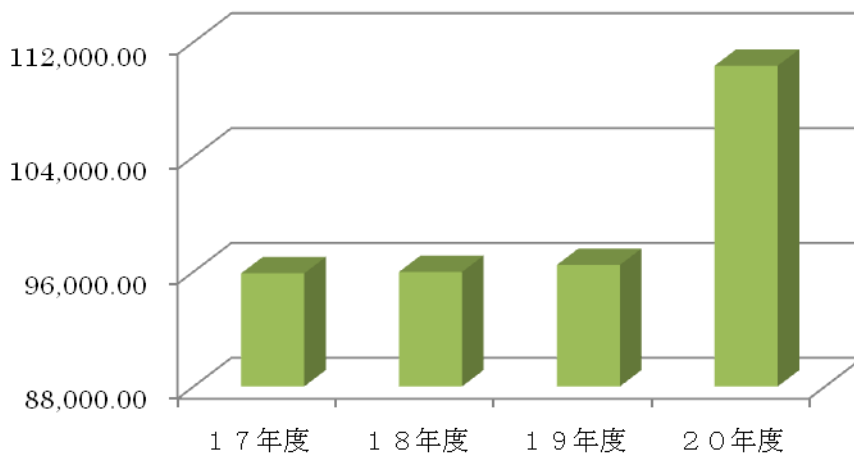
上水使用量(m³)



下水使用量(m³)



延床面積推移(m²)



【温室効果ガス排出量】

本学の温室効果ガス排出量に係わる対象物質は、電力、都市ガス、A重油です。年間15,552[t-CO₂/年]であり、面積当たりに換算すると140[kg-CO₂/m²]の排出となります。

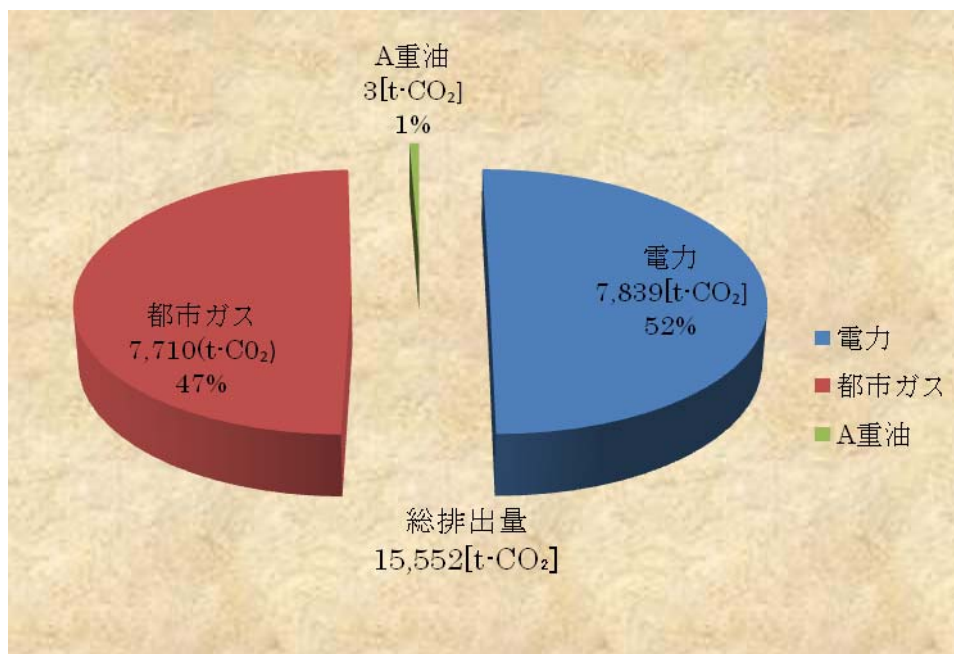


図. 5-3 温室効果ガス排出量（平成20年度）

総エネルギー消費量より、本学の温室効果ガス排出量を、環境省地球環境局発行「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」に基づき算出をおこないました。

前年度排出量は、15,058[t-CO₂]であり、前年度比3.2[%]の増加となりましたが、設備の充実と温室効果ガス削減の両立を目指し、温室効果ガス排出量の低減を図り、今後も省エネ活動を実行していきます。

5.2 原材料消費量

【コピー用紙消費量】

本学事務部門においては、業務の電子化・ペーパーレス化を進めております。各課室においてコピー用紙等の紙媒体削減に向けた取組を一部紹介いたします。

- 会議資料(議事録等も含む)の一部をメールにて委員に事前送付し、会議当日の配付資料を削減している。
- 広報誌の原稿をPDF化し、電子メールに添付して担当者に校正を依頼している。紙ベースでのやりとりを省く。
- 古紙の再使用及び両面コピーの推進を実施している。
- 学内における事務連絡事項は、紙媒体の通知ではなく、メールを活用している。
- 会議の資料をスクリーンに投影することにより、配付資料の削減を図る、スクリーン会議を推進している。
- 施設課では6月より、紙ベースでの時間外冷暖房依頼書を廃止し、電子化した。

今後も、紙使用量を出来る限り削減し、地球環境の推進を継続して実施していきます。



図. 5-4 目標枚数を貼り付けたコピー機

コピー機には1日一人当たりの使用枚数を意識するために、目標枚数が掲示してあります。また、カラーコピーにはパスワード制限をかけて、一人一人が節約を心がけております。

5.3 廃棄物排出量

【廃棄物の排出量】

平成20年度の廃棄物排出量を示しています。

記載事項は医療廃棄物、産業廃棄物、一般廃棄物(可燃・不燃)です。

医療廃棄物は、病院や学部で使用された血液等が付着した布類や使用済みの注射針で、感染性の恐れがある廃棄物の排出量を示しています。産業廃棄物は、廃プラスチック類、金属類、ガラス類等の排出量を示しています。

一般廃棄物は、日常生活で発生する一般ごみ、飲料用のカン、ペットボトルの排出量を示しています。

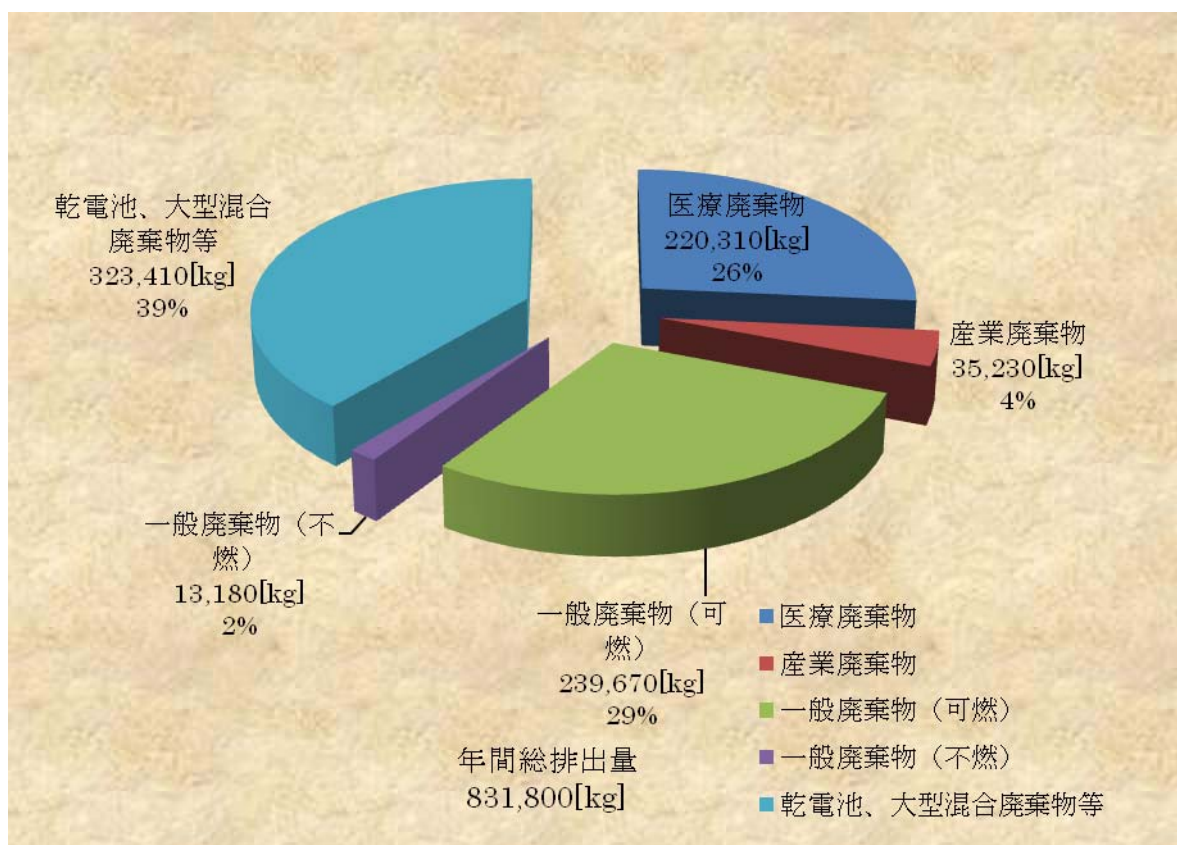


図. 5-5 廃棄物排出量(平成20年度)

【廃棄物の適正な処理】

（医療廃棄物について）

医療廃棄物とは、血液・血清・血漿並びに体液、血液製剤、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられた試験器具・培地・透析器具、血液等が付着した鋭利なもの及びその他血液等が付着したものが廃棄物として排出されたものをいいます。滋賀医科大学では、「滋賀医科大学排水・廃棄物管理等規程」を制定し、管理体制を整備するとともに、これら感染性廃棄物の搬出・処理の過程において感染事故が発生しないよう努めています。

基本的には、医療廃棄物は発生時点で他の廃棄物と分別して排出し、絶対に混入してはならない。また、医療廃棄物を排出する際は、本学が指定する専用の段ボール箱又はポリ容器を必ず使用しています。医療廃棄物は、特別管理産業廃棄物に属し、その管理には厳重を期しています。

（医療廃棄物の処理）

医療廃棄物は、専用の容器を用いて排出され、各部署から排出された容器は、清掃業者によって専用の集積場所に集積されます。この容器は使い捨てです。

専用の集積場所に集められた医療廃棄物は、週3回委託業者が回収します。回収の際には、排出量を記載した産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付します。マニフェストは、排出から最終処分までの処理の流れを確認する様式となっていますので、これにより適正に処理されていることが確認できます。

（産業廃棄物について）

産業廃棄物については、医療用に用いられたプラスチック類、医療用缶、医療用ビン、その他一般用ビンなどに分かれます。

これらの分別された産業廃棄物は適切に処分し、一部はリサイクルをしております。

（一般廃棄物について）

一般廃棄物については日常生活で発生する一般ごみ、カン、ペットボトルに分類されます。

これらの分類は、本学の所在地である大津市の分別方法に従って分別しており、分別された一般廃棄物は、大津市の処分場に搬入しております。

（廃棄物の分別について）

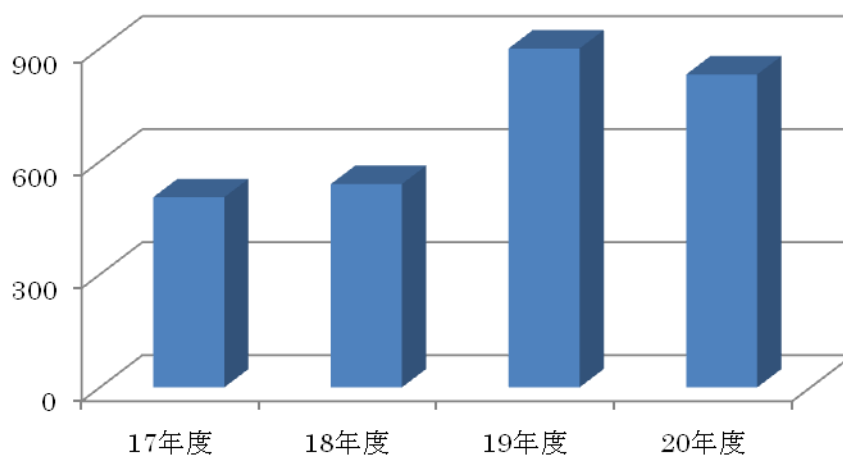
具体的な分別は、「滋賀医科大学における廃棄物の分別方法」という表を作成し、この表に基づいて行っています。表には絵図を用いることにより、ひと目で確認ができるよう工夫しています。昨年 11 月に分別方法を見直し、これまで一般廃棄物として処理していたもののうち、紛らわしいものを医療廃棄物とし、安全性の向上を図りました。その結果として医療廃棄物が増えています。



医療廃棄物は付属病院の地下で、常時扉を施錠し、厳重に管理しています。

図. 5-6 医療廃棄物収集箱

廃棄物排出量の推移(t)



5.4 グリーン購入の状況

本学では、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)に基づき、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進め、毎年度の状況の実績を関係省庁に報告しています。

環境負荷低減に資する製品・サービスとは、グリーン購入法において、「原材料・部品・製造方法等や、使用時に環境への負荷を低減しているもの」「これらの製品等を用いて行われるサービス」等を言い、これらの製品にはカタログにグリーン購入法適合商品を意味するグリーンマークやエコマーク等の環境保護マークが付され、選びやすくされています。

物品の選択にあたって、本学でも環境保護マークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めると共に、特定調達品目にはされていないトナーカートリッジの調達に当たっては、出来る限り再生品の調達に努めています。

また、OA機器、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものの調達に努めるなど環境保全に配慮された物品を調達することに配慮しています。

そのほか、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対しても、グリーン購入を推進するよう働きかけています。

表. 5-4 グリーン購入調達実績 (平成20年度)

分類	品目	①グリーン購入調達目標値 [%]	②総調達量	③特定調達物品等の調達量	④特定調達物品等の調達率 = ③ / ② [%]	⑤目標調達率 = ④ / ① [%]
紙類	コピー用紙	100	109,655.98 [kg]	109,655.98 [kg]	100	100
文具類	ペン類	100	14,507 個	14,507 個	100	100
機器類	椅子、机、棚	100	49 個	49 個	100	100
OA機器	コピー機、プリンタ	100	78 台	78 台	100	100
家電製品	電気冷蔵庫等	100	61 台	61 台	100	100
照明	蛍光灯	100	3,335 本	3,335 本	100	100
役務	印刷	100	494 件	494 件	100	100

5.5 物質フローまとめ



注) 電力については原子力・火力・水力発電等の比率により、毎年電力会社からのCO₂換算係数が発表される。
 昨年度より換算係数が大きくなったため、エネルギー消費量に比較してCO₂排出量が増加している。

6 環境規制への取組

本学においては、地球環境保全の為、以下の環境法令等を遵守しております。

環 境 法 令
エネルギーの使用の合理化に関する法律 第一種指定工場に指定され毎年1%のエネルギー削減を目指しております。
環境基本法 環境三法案を遵守し事業活動を実施しております。
地球温暖化対策の推進に関する法律 地球温暖化抑制のため、環境に配慮した設備機器の導入を推進しております。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 処理に関しては、マニフェストにて適正に処分されていることを確認しております。
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法 本学にて過去に使用していたPCBは適切に管理し、今後廃棄処分を進めていきます。

報告期間中(平成20年度中)の重大な法令違反はありませんでしたが、今後とも環境法令等を遵守し事業活動を行ってまいります。

既設建物は耐震安全性を確保し、全面的な設備改修を行って高度化、老朽化に対応するとともに、環境に配慮した設計施工管理を心掛けます。また、施設の長寿命化を図って有効活用を行うことによっても環境保全に貢献します。



耐震改修予定の基礎研究棟・一般教養棟(完成予定図)

7 環境目標・実績(平成20年度)

環境側面		目標	実績	実施事項
エネルギー	電力	前年度比 1%以上の 削減	前年度比 1.2%増	休憩時間の事務室・教室等の消灯
				便所、廊下等の共通部分蛍光灯に人感・ 明暗センサの導入
				LED照明の採用
				月別電力使用量をHPで掲載
				エレベータの利用制限の実施
	都市ガス	前年度比 1%以上の 削減	前年度比 4.1%減	室内温度を冬季20℃、夏季28℃の実施
				ボイラ効率向上、大気排熱の低減 蒸気バルブの保温
A重油	現状維持	前年度比 50%減	常用発電機の利用を廃止	
温室効果ガス 前年度比 3.2%増 494tの増加				
水資源	上水・下水	現状維持	前年度比 上水 19.3%減 下水 6%減	節水コマの使用
				自動水栓の導入
				節水型便器の導入検討
				中水の活用
その他資源	紙	現状維持	4.2%減	会議配布資料の両面印刷・簡素化
				学内通知、事務連絡等の通知を学内情報 共有システム(HP)の利用
				古紙の再利用
	廃棄物	現状維持	医療 3.2%増 産業 14.6%減 一般 5.6%減 大型 14.5%減	メール等を用いた不要物品のリサイクル
				3R(リデュース、リユース、リサイクル)の実施
グリーン 購入の促進	100%実施	特定品目 100%実施	調達品目の状況把握 特定品目の100%実施	
その他の主な 環境行動		省エネポスター、省エネシールの掲示		
		学内ESCO事業の導入		

8 環境行動情報

【ソフト的な省エネ・省資源対策】

省エネルギー・省資源への啓発活動

省エネルギー啓発シールを作成し、コンセント、空調機コントローラ、流し台等に啓発シールを貼り付け構成員一人一人の省エネルギー意識改革を推進しております。また、昼休みにおける不要な照明は、極力消灯しております。校舎内の1～3階まではエレベーターの利用を極力控えるよう啓発シールを貼っております。

3R(リユース、リデュース、リサイクル)活動については、学内で不要になった物品を学内メール配信に記載し、必要な部署へ譲り合うシステムを築き、省資源化に努めております。



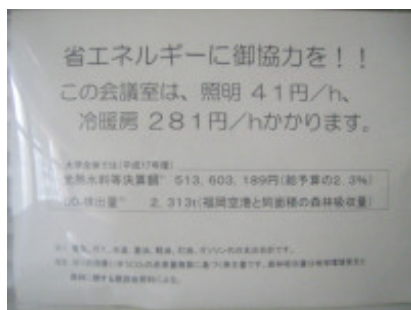
空調機の設定温度

夏季28度、冬季20度設定にするよう啓発シールを貼っております。



節電、節水

照明のスイッチには節電、水道の蛇口付近には節水シールを貼っております。



エネルギーコストの掲示

会議室等には1時間あたりの照明、冷暖房のコストを具体的に掲示してあります。



ペットボトル用ゴミ箱

ペットボトル用のゴミ箱には効率的な回収を促す表示をしてあります。



ゴミの分別

校舎、附属病院等にゴミ箱を設置し分別して回収できるように努めております。特に大講義室近辺には積極的にゴミ箱を設置しています。



断熱ミラーフィルム

3月末に竣工しましたクリエイティブ・モチベーション・センター(学生課外活動棟)には断熱ミラーフィルムを貼り建物内の温度上昇を防ぐ役割を果たしています。

【ハード的な省エネ・省資源対策】

本学で昨年度行った設備的な省エネ事例を紹介いたします。一般的に病院施設において、エネルギー需要の割合は、空調熱源32[%]、熱搬送12[%]、給湯・蒸気18[%]、照明・コンセント21[%]、動力11[%]、その他6[%]と言われております。

水使用量の削減を図るために節水コマの活用、及び一度利用した水を浄化し、無害化した後、再利用水として、トイレの流し水として活用しております。

昨年12月には基礎実習棟の屋上に最大10Kwの太陽光システムを増設しており、さらに今年度3月には附属図書館屋上に最大50Kwの太陽光システムを設置する予定です。発電した電力は学内で使用する電力の一部に充てられます。

昨年度に設置しました太陽光パネルは60枚で約80㎡、今年度設置が決定している太陽光パネルは267枚で約380㎡になります。

また、附属病院玄関ホール改修、基礎研究棟・一般教養棟及び基礎実習棟の便所改修、保育所増築工事ではLED照明器具を積極的に取り入れ、省エネルギーに貢献していく考えです。



図. 5-7 基礎実習棟屋上に増設・設置された太陽光発電パネル

9 その他

本報告書に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

作成部署・お問い合わせ先：

滋賀医科大学施設課施設企画係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2052 FAX：077-548-2047

e-mail：hqsisetu@belle.shiga-med.ac.jp

ホームページアドレス：<http://www.shiga-med.ac.jp/>

交通・アクセス：

■所要時間

- ・東海道本線(琵琶湖線)JR京都駅からJR瀬田駅まで約20分(運賃:320円)
- ・JR瀬田駅から大学病院までバス約15分(運賃:250円)
- ・JR瀬田駅から大学病院までタクシーで約10分(運賃:約1,500円)
- ・JR南草津駅から大学病院までバス約15分(運賃:300円)
- ・名神高速道路草津田上インターチェンジから約5分
- ・名神高速道路瀬田(西・東)インターチェンジから約10分

■JRの場合

東海道本線(琵琶湖線)のJR瀬田駅で下車。JR瀬田駅から「滋賀医大」行きのバスに乗り「大学病院前」で下車

※JR瀬田駅には新快速は止まりません。快速または各駅停車をご利用下さい。また、JR京都駅では琵琶湖線(草津、野洲、米原、長浜行き)と湖西線とをお間違えないようご注意ください。



■ 今回の報告書作成にあたり
(環境報告書ワーキンググループメンバーより)

環境報告書の発行は今回で4回目となります。以前からの課題であった「過去から現在に至る環境負荷、環境変化の経緯」ですが、4年間のデータをもとにグラフで表してみました。昭和53年10月に開院した本学附属病院は、建物、設備の老朽化が進み、平成17年度より病院再開発事業が開始されました。事業とともに環境負荷に関しても激動の時期であります。新病棟の竣工や、増築が伴えば環境負荷は増加となります。今後はデータを蓄積するとともに、対象面積や設備が充実される中でいかに省エネを進めるか、環境負荷を軽減できるかが大きな課題といえます。

また国立大学法人として、社会や地域住民の皆様と関わり合い、環境に対する活動・意識改革に取り組んでいきたいと思っております。

今回の報告書より、直近のデータを公表しておりますことを、ご理解いただくため、表題に発行年である2009を使用しました。昨年までは報告対象年を表題としていましたので、2008は欠番となります。

【今後の課題】

- 社会への環境コミュニケーションの構築
- 環境負荷低減に向けての温室効果ガスの数値目標、目標設定
- 環境法令遵守に係る取組事例
- 第三者による評価・分析
- 国立大学法人として環境に対する社会への説明責任の確立

今後とも、上記課題を念頭に置き、事業活動を実施していきたいと思っております。

滋賀医科大学環境報告書 2009



■本学学章の説明

- ・「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。「中心に向かって、外からさざ波の波動—これは人々への医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動—これは人々の期待に返す答えである。